



赤十字血液センターに報告された非溶血性輸血副作用-2017年-

2017年の1年間に、医療機関において輸血による副作用・感染症が疑われ、赤十字血液センターに報告された症例のうち、最も報告数の多い非溶血性輸血副作用についてお知らせします。

副作用・感染症報告数の推移 (輸血との関連性なしとされた症例も含まれます。)

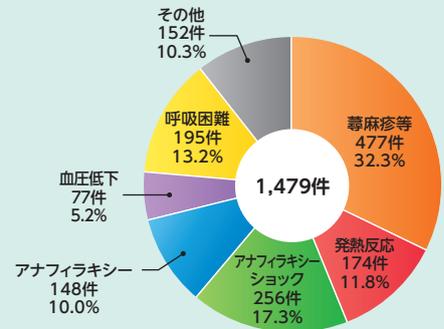


2017年の非溶血性輸血副作用報告数は1,479件であり、輸血による副作用・感染症報告数1,584件の93.4%を占めていました。

非溶血性輸血副作用(2017年)

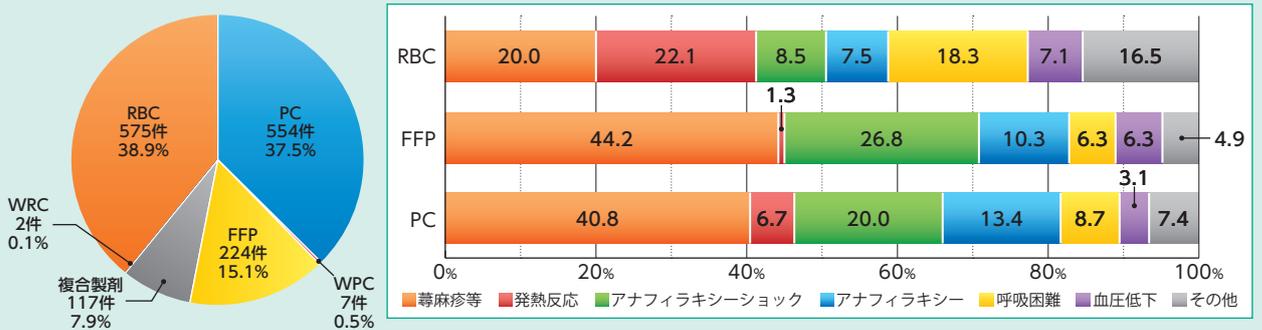
副作用の種類

副作用を症状別にまとめました。
重篤例が多い、「アナフィラキシーショック」、「アナフィラキシー」、「血圧低下」、「呼吸困難」が全体の45.7%を占めています。
なお、「TRALI」、「TACO」と評価された症例はすべて「呼吸困難」に含まれます。



使用製剤の種類及び製剤毎の副作用(症状別)発生の内訳

赤血球製剤または血小板製剤による副作用が多く報告されています。
血漿製剤、血小板製剤では、蕁麻疹等、アナフィラキシーショックの報告割合が多くなっています。



(参考)

- 【血圧低下】
皮膚症状、呼吸困難等の症状を伴わずに血圧低下を示したものの。
- 【アナフィラキシー】
全身紅潮、蕁麻疹、血管浮腫(顔面浮腫、咽頭浮腫等)、呼吸困難等の複数の全身症状を示したものの。
- 【アナフィラキシーショック】
「アナフィラキシー」に血圧低下を伴ったものの。

■使用製剤・症状別副作用報告数(供給本数に対する頻度)(2017年)

製剤	血小板製剤*	赤血球製剤*	血漿製剤
供給本数	824,201	3,279,141	938,410
蕁麻疹等	226件(約1/ 3,600)	115件(約1/ 29,000)	99件(約1/ 9,500)
発熱反応	37件(約1/ 22,000)	127件(約1/ 26,000)	3件(約1/310,000)
血圧低下	17件(約1/ 48,000)	41件(約1/ 80,000)	14件(約1/ 67,000)
アナフィラキシー	74件(約1/ 11,000)	43件(約1/ 76,000)	23件(約1/ 41,000)
アナフィラキシーショック	111件(約1/ 7,400)	49件(約1/ 67,000)	60件(約1/ 16,000)
呼吸困難	38件(約1/ 22,000)	73件(約1/ 45,000)	10件(約1/ 94,000)
TRALI	3件(約1/270,000)	1件(約1/3,300,000)	0件
TACO	7件(約1/120,000)	31件(約1/ 110,000)	4件(約1/230,000)
その他	41件(約1/ 20,000)	95件(約1/ 35,000)	11件(約1/ 85,000)
計	554件(約1/ 1,500)	575件(約1/ 5,700)	224件(約1/ 4,200)

上記製剤には、放射線照射製剤及び未照射製剤の両方を含み、2種類以上の製剤が使用された症例は除外しました。

※洗浄赤血球製剤、解凍赤血球製剤、合成血液、洗浄血小板製剤(HLAを含む)は除く。

■洗浄血小板製剤による副作用(2017年)

輸血による副作用を防止する目的で、2016年9月から供給開始した洗浄血小板製剤の輸血により疑われた副作用が8件報告され、うち1件が重篤症例でした。

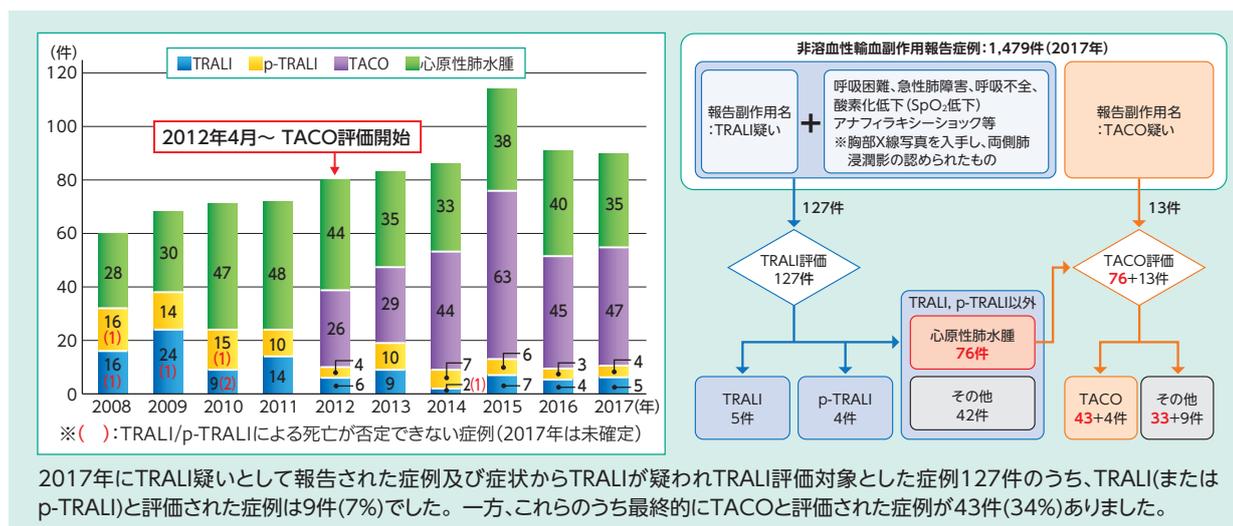
副作用名	重篤度	発現時間	前投薬	年齢	性別	原疾患
発赤・掻痒感	非重篤	48分	有	70代	男	AML
蕁麻疹	非重篤	不明	不明	50代	男	白血病
発赤	非重篤	80分	不明	60代	男	MDS
シバリング・発熱	非重篤	15分	有	70代	男	MDS
蕁麻疹*1	非重篤	60分	有	70代	男	MDS
アナフィラキシー*2	重篤	125分	有	70代	女	MDS
発熱・悪寒・戦慄	非重篤	175分	有	50代	女	MDS
発熱・悪寒	非重篤	60分	不明	60代	男	AML

*1 Ir-RBC-LRも被疑薬として報告された。

*2 Ir-PC-LRによるアナフィラキシーショックの副作用歴があり、今回は血圧低下を認めず、副作用症状は前回より軽いものであった。当該輸血後も照射洗浄血小板製剤を輸血されているが副作用は認められていない。

■TRALI、TACO症例数の推移(2008年～2017年)

呼吸困難を呈した輸血副作用症例のうち、輸血関連急性肺障害(TRALI)または輸血関連循環過負荷(TACO)が疑われた症例について、診断基準(TACOについては日赤評価基準)に基づいて評価した件数です。



輸血用血液製剤の使用による副作用・感染症が疑われた場合には、直ちに赤十字血液センター医薬情報担当者までご連絡ください。また、原因究明のために、使用された製剤及び患者の検体等の提供をお願いすることがあります。なお、使用された製剤及び患者の検体は「血液製剤に係る選及調査ガイドライン」を参照のうえ保存してください。

〈発行元〉日本赤十字社 血液事業本部 技術部 学術情報課
〒105-0011 東京都港区芝公園1丁目2番1号

※お問い合わせは、最寄りの赤十字血液センター
医薬情報担当者へお願いします。

日本赤十字社 医薬品情報ウェブサイト
製品情報・輸血情報等についてはこちら

日本赤十字社 医薬品情報

検索

